

木崎中だより

3号

令和3年6月1日(火)
さいたま市立木崎中学校
048(886)4302

いじめ撲滅をめざして

校長 稲田 正平

ゴールデンウィークで始まった5月でしたが、新型コロナウイルス感染症のまん延防止措置が取られる中での一か月間でした。5月は、新体力テスト、中間テスト、生徒総会などがありました。更に運動部の3年生にとっては、最後の大会となる学校総合体育大会市内予選会に向けて、練習に励んでいる様子も見られます。6月5日から始まる大会で各選手が全力で活躍してくれることを願っています。このように見ると、順調な学校生活が送れているように感じますが、新型コロナウイルス感染症は変異種の感染が拡大し、小学生や中高生にも感染の広がりが見られるようになってきているという報道もあり、予断を許さない状況が続いています。引き続きマスクの着用や手指消毒の徹底、換気と人との距離をとることなどの対応をしながら感染予防に努め学校運営に万全を期してまいります。保護者や地域の皆様も十分に健康にご留意いただけたらと存じます。

さて、さいたま市では例年6月を「いじめ撲滅強化月間」として取り組むこととしております。これは平成23年から10年間続いている取組です。しかし、コロナ禍ということもあり昨年度から年間を通じていじめ撲滅に取り組むことになりました。現在いじめとは「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」と定義され、「起こった場所は学校の内外を問わない」となっています。当然、いじめをすることはいけないことであると全国共通に皆が認識していることと思いますが、日々伝えられるさまざまな報道を見ていると依然として「いじめ」はなくならないのが現在の状況です。さいたま市では2年前に「第3次子ども輝きプラン」を策定した際に「どうしたらいじめを減らしたり、悩みを解決したりできるか」というアンケートをしました。中学生では「学校にいじめを許さない雰囲気を作る」「いじめに気がついたらすぐに先生や友だちに知らせる」という回答が多かったそうです。木崎中でもいじめを許さない雰囲気を作り出すために、今年度は、①各学級でいじめ撲滅に向けたスローガンの作成、②部活動ごとのハートフルメッセージの紹介、③「いじめ撲滅の木」のポスター作成を主な取組として活動していきます。我々教職員もこの機会に、情報共有を綿密にしていじめの未然防止と早期発見に努めた教育活動を進めていきます。また、「子ども輝きプラン」では、これからの社会を生きていくために子どもに必要なと思われる資質能力についてアンケートしたところ、①豊かな人間関係を築く力、②様々な問題に積極的に対応し解決する力、③根気強さ・忍耐強さ・意志の強さの三つが上位を占め、この回答は保護者教職員とも共通していたそうです。これらの三つの資質能力は非認知能力とも呼ばれ、数字などでは表せない能力です。そして、これらの資質能力は変化の激しいこれからの社会を生きていくために欠かすことができないものとして取り上げられています。特に豊かな人間関係を築く力は、自分自身と同様に相手のことも大切にし、お互いを尊重することで育成されるもので、いじめを許さない雰囲気を広げるためにも重要な力であると言えます。木崎中生にもこのような資質能力を育成すべく、教科や各領域での学習をはじめ学校行事や部活動等を充実させ様々な経験を積ませていきたいと考えています。